

## 埼玉県日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画 最終レポート

渡邊航大

この度、第44期生として、埼玉県日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加させていただきました、渡邊航大です。メキシコシティにて一年間の研修を無事終了させていただき、八月に帰国いたしました。この一年間は、埼玉県国際課の皆様、外務省また現地機関である CONACYT の方々など多くの人に支えられ、大変有意義な時間を過ごすことができました。昨年八月にメキシコに到着した時には、スペイン語もあまり話せず、ただ生活するのもままならなかった自分が無事に一年の研修を終えられたのは多くの支えがあったからだと思います。本当にありがとうございました。この最終レポートでは、まず初めに渡墨前のイメージと実際に生活してわかった違いを簡単に述べた後、留学前に自分が建てた大きな2つの目標についての活動を報告し、留学中及び、今現在感じていることについて書きたいと思います。

皆さんはメキシコについてどのようなイメージを持っているのでしょうか。埼玉県とメキシコ州は姉妹提携都市ではありますが、漠然としたイメージしか持っていない方も多と思います。以前の定期レポートにも書きましたが、私もそのうちの一人で、出発前に想像していたメキシコと実際に体験したメキシコは驚くほど異なり、一年間の留学生活を通じて、私にとってメキシコは特別な国になりました。現在、再びメキシコを訪れたいと考えています。以前の定期レポートに加えて、今回の最終レポートにおいてもこのイメージの差について書くのは、やはり帰国してから多くの人に留学について話すと、メキシコという国がどれほど日本で誤解されているのか実感させられるからです。メキシコと聞くと、アメリカの隣にある治安が悪い国、大きい帽子とテキーラの国としか考えていない方も多いかと思います。私も今回の留学を決めたとき、友人からどうしてわざわざそんな危険な国に行くのかと何度も質問され、実際に反対もされました。帰国後も治安についてはよく質問を受けますが、その多くが実際に銃声を聞いたかなど非常に危険であることを想定したものが多いです。もちろん実際に一年間生活してみてもメキシコは日本と同じで安全な国だとは言いません。治安の問題がある国だと感じます。私自身、一緒に地下鉄に乗った友人が財布をすられたこともあります。しかし事前の準備と注意さえすれば、未然に防げることも多いです。個人的には一年間の生活で盗難にも遭わず、無事に帰国することができました。帰国後たくさんの人と話していると悪いイメージが必要以上に誇張されていると感じます。また悪いイメージがメキシコの良い点（料理、文化、観光名所）などの情報を覆い隠しているようにも感じます。メキシコは非常に観光資源が豊富な国ですが、このようなメキシコの良い点はほとんど認知されていないように感じます。どの国や地域でもよい点と悪い点が存在し、加えて悪いニュースほど影響力を持つということを頭に入れ

たうえて、ぜひ姉妹提携都市の皆様にはぜひもう一步進んだメキシコのイメージを持っていただきたいと思います。特に埼玉親善大使としてぜひニュースだけではわからないメキシコのよい点を伝えたいと思い定期レポートも書いてきました。十分な準備と対策を講じたうえて、ぜひメキシコに足を運んでいただきたいと考えています。

さて私が留学前に建てた二つの目標についてですが、一つはスペイン語の習得、もう一つは現地の日本語教育機関に携わることでした。スペイン語についてですが、大学では第二外国語として入学から学んでいたものの、アメリカに4カ月間、英語を学びに語学留学に行ったこともあり、メキシコシティに到着した際には、入国検査の簡単な質問がかろうじて理解できる程度でした。日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画の参加者は到着後メキシコ国立大学の CEPE という外国人向けの語学学校に通うことになります。この学校では様々な国籍を持つ学生がレベルごとに分かれてスペイン語を学んでいます。入学したときは、8つのレベルのうち、下から3つ目のレベルで勉強を始めることになりました。最初は先生の話が理解できず、宿題の範囲すら理解することができませんでした。周りの学生や先生のサポートもあり何とか試験を突破することができたのを今でも鮮明に覚えています。スペイン語の習得を目的とした際に、ただ授業やテストでいい点を取るのではなくより多くのメキシコ人とコミュニケーションをとることが大事と考え、日本語を学んでいる学生を見つけては、日本語を教える代わりにスペイン語を教えてもらっていました。よりスペイン語に触れる機会を増やすために、最初の住居はメキシコ人のルームシェアを選択し、空き時間にはテレビやラジオをひたすら聞いていました。また週末には、自分のスペイン語力を生かすために一人で日帰り旅行をしていました。プエブラへの旅行については以前のレポートにも書かせていただきました。市場でぼったくりに会いそうになったり、バスを間違えまったく逆の方向に行ったりもしましたが、実際に自分が行動した中で使ったスペイン語は深く記憶に残っています。またわからなかった表現などもその経験がきっかけで使えるようになり、今ではもっと外に出るべきだったと後悔すらしています。また実際に外に出て、生のスペイン語に触れることは、語学習得のみならず、文化や現地の方の生活を垣間見れたという点で非常に有益であったと考えております。このような活動を通じて、約半年後には日常のコミュニケーションには困らない程度の語学力が身につけていました。語学学習には終わりがありません。日本に帰国してからも勉強は継続しており、来月にはスペイン語の国際資格である DELE にも挑戦する予定です。

2つ目の目標は、現地での日本語教育に携わることでした。意外に思われるかたも多いかと思いますが、メキシコはスペイン語圏でもっとも日本語学習者がいる国です。私は大学にて外国人の方に対する日本語教育を学び、ボランティアとして日本語教える活動をしていました。今回この埼玉県日墨戦略的グローバル・パートナーシップ研修計画に参加す

ることを決めたのも、スペイン語習得に加えて、大学で学んだ外国人の方に対する日本語教育の知識をより実践的に活用してみたいと考えたからです。そのために最初の半年間は、スペイン語の学習に集中し、後半は現地の日本語学校と掛け持ちで現地の日本語学校のクラスを見学させていただいたり、ボランティアスタッフとして日本語を教える活動をしていました。現地では日本のサブカルチャーがきっかけで日本語の勉強を始める方が多いです。埼玉県が舞台の作品も広く認知されているようで、埼玉県出身というとよく学生からアニメに関する質問をされていました。また近年、多くの日本企業が北米や南米への輸出を視野に入れ、メキシコに進出しています。給与などの待遇がメキシコ企業より多いことに加えて、通訳などの需要も年々高まっていることから、日本企業への就職を目指し、日本語を学ぶ学生も多く見受けられました。日本から遠く離れた国でも、やはり日本語を勉強する学生に合うと、一人の日本人として非常にうれしくなりました。多くの学生が熱心に勉強していて、こちらとしても教えがいがありました。しかし問題点も多くありました。まず日本語の本などがメキシコでは非常に手に入りづらいこと。見学させていた語学学校では、先生方が日本に帰国した際に持参した本などを生徒に貸し出していました。やはり量には限界があります。自分も渡墨時に日本語学習者用の簡単な本をかなり持参していましたが、多くの学生から譲ってほしいといわれ、到着から一か月ですべての本が手元からなくなりました。また日本語教育用の教材についても英語の解説しかついていなかったりと、実際に教育現場に参加させていただいて初めて分かった現状がありました。レベルの高い日本語学習者は、メキシコ国内では非常に高い需要があります。見学させていただいた語学学校には、日系企業から直接電話があり、その多くがすでに実用レベルの日本語を習得しているメキシコ人を紹介してほしいというものでした。以前は日本語教師として現地で働かれていた方も待遇面から、通訳として働き始める方も増えており、日本語教師、実用レベルの日本語を習得しているメキシコ人が不足している状態です。今後、さらに日墨のつながりが強くなれば、さらに人材が不足すると予想されますので、何かしらの対応が必要であると強く感じ、どのような形になるかはわかりませんが、自分も日本、メキシコの友好関係に今後携わっていきたいと考えております。

皆さんは、メキシコと聞いて何を思い浮かべますか。どんなイメージがあるにしても、一年間の留学をさせていただいた人間としてぜひ現地の足を運んで本当のメキシコを体験していただきたいと強く思います。もちろん、日本のイメージ通りのメキシコも一部存在するかもしれませんが、メキシコは貧富の格差が非常に激しい国です。市内にはいまだに水道設備が整っていない地区がある一方で、海外の高級ブランド店が立ち並ぶ地区もあります。今回の研修を通じて、いい面も悪い面も実際に自分の目で見ることができました。留学中には、急に引っ越しを体験することになったり、詐欺に会いそうになったり、急に断

水したり、食事が合わなかったりと様々な緊急事態にも遭遇しました。日本で生活していると異常に感じますが、基本的に水道水を飲むことができないため飲料水は別に購入する必要があり、20リットルの水が入るボトルを担ぐような生活でしたが、今ではそのような生活が非常に懐かしく思うこともあります。また日本での自分の生活がいかに恵まれていたかを実感しました。今回の留学を通じて、スペイン語力や日本語教育の実践経験だけでなく、さまざまな緊急事態をたくさんの助けを借りて乗り切る力がつuitたと感じております。姉妹都市に住むものとして、私のレポートなどを通じてメキシコという国に少しでも興味を持っていただければ幸いです。また今回の留学をサポートしていただいた埼玉県国際課および外務省の皆さん、現地で大変お世話になりました CONACYT の皆さんにこの場を借りてお礼を申し上げたいと思います。本当にありがとうございました。